

(様式1)

自己評価票

作成日 平成23年10月22日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870101524		
法人名	有限会社 敬愛		
事業所名	グループホーム お母さんの家	ユニット名	2階
所在地	〒310-0914 茨城県 水戸市小吹町2297-17		
自己評価作成日	平成23年10月22日	評価結果 市町村受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成 年 月 日	評価確定日	平成 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然環境が多く残っている地域の中で一つの家族として共に暮らし自分らしく又、それぞれの役割をもって生活していただいております。施設の敷地内に畑があり季節ごとに種まきから成長の段階を日々の散歩時に楽しみ、収穫も入居者様、職員が一緒に行いそれを調理し旬の味を楽しんでおります。ゆったりとした日々の中可能な限り自立した生活、笑顔の絶えない毎日が送れるようサポートしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の基本理念を出入口、事務所内に掲示し、毎日目を通し、ユニットリーダー含め職員一同で確認しあっている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園、乳児院との交流があり、今年の秋祭りには小吹青年団、乳児院等より沢山のボランティアの方々の参加があり地域にも浸透してきている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設のすぐ近くに住まわれている2名の運営推進委員会の方がおり、会議の中でも取り上げていますが、今後も地域密着型施設として、気軽に声を掛けていただける様に働きかけていきたい。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回実施し近隣のGHの方々、ご家族様等の参加があり、様々な意見交換を行い、日々のサービスに生かしている。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホーム長が窓口となり随時ご指導を受けながら、各種連絡を取り合っている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が身体拘束面に関して理解しており、日々ケアを実践している。玄関に関しては、ボタンを押しての開閉式である為、職員が付き添いその都度確認してはいるが、大体の入居者様は理解されて使用している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関しては、研修や資料等で学び、言葉による虐待も含め話し合い、虐待の防止、職員の知識、意識の向上に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が内容を把握するには至っていない為、研修への参加を促すとともに、日々の勉強に励んでいる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項、運営基準、料金表の中から介護保険と自己負担分の説明、又、該当時の加算項目や入居時の条件等を丁寧に説明し納得された上での契約となっています。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族懇談会等を実施し、ご家族様、社長、職員で話し合いの機会を設けケアに生かしている。入居者様の参加は無いが、日々のケアの中で要望等を引き出せるようにしている。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1度各階の職員が集まり、ミーティングを行っている。又同日にホーム長、各階ユニットリーダーでの管理者ミーティングも行い、情報の共有とそこで話合った内容が運営に反映されている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員へ資格取得を促すとともに、資格取得により給与も上がる為各自が向上心をもって仕事に励んでいる。又、各ユニットごとに職員同士連携し、話し合いながら、働きやすい職場作りを行っている。
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へは可能な限り参加をしており、研修を受けた者が報告書をまとめ資料等に各自が目を通すようにしている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	協議会に加入しており、同業者同士の交流図っているが、まだ勉強会や相互訪問への活動は不十分な部分もある。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その内容を理解し、その都度要望、訴え等を話しあいながら、環境整備を行い、少しでも早く不安感を解消し安心して生活が送れるように努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	各種連絡調整を行うとともに、ご家族様が面会時の際に話す機会をもち、望んでいる事、不安に感じている事等を把握し、信頼関係の構築に力を入れ、出来る限りその要望に合わせてケアを行ってよりよい関係づくりに努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容から、本人様にとって何が必要なのかを理解し、施設での生活、様々な可能性を考えながら、その他のサービスも含めその都度話し合いの場をもち検討、対応をしている。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、常に尊敬の念を持ち入居者様と接している。日々の生活の中で、裁縫や草花の手入れを教えていただいたり、新しい電化製品の使い方を教えたりと、相互に支え合って生活している。
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様を中心に常にご家族様と一緒に目線で考え、どのようにしたらいいかを話し合い信頼しあえる関係を作っている。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や周りからの協力もあり、本人様の意見を尊重しなじみの美容院や、教会等に通えるようになっている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人個人の性格を把握し、互いに円滑な人間関係を保っていけるよう支援しているが、あまり関わりを好まれない方もおられるので、その方のペースを壊さぬよう、その場合は職員が間に入り支えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退居された場合であっても現在ではどうされているのかをご家族様より必要に応じて、お聞きしている。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人様の希望を尊重し、それに沿ったケアを行う事でその方にとってよりよい生活を送って頂ける様支援している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとり今までの生活歴や育った環境、行動パターンが違うので、自分らしく日々生活を送っていただき、穏やかに過ごしていただける様心がけている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝なじみの職員、入居者同士が顔を合わせラジオ体操や外気浴で共に体を動かし、気分転換を図り、一人ひとりの表情や、体調を把握している。又、無理なくその人らしく生活を送って頂ける様努めている。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回各階カンファレンスにて個別ケアの見直しを行っている。その際にモニタリングとして、本人様の今の現状や、改善策を話し合い介護計画に反映させている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日一人ひとりの日々の生活で築いた点や様子等を個別記録に記入し、職員間で共有、毎月のカンファレンスで話し合い介護計画の見直しの際に役立てている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内外での様々なサービスを利用できるよう情報収集し、個々のニーズに対応できるよう心がけている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各行事の際はボランティアの来所もあり、地域のJRC部高校生との交流があり、入居者様の刺激にもなっている。
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様やご家族様より希望を聞き係りつけの病院の希望があった際は継続して受診が出来るようにしている。又、急変時に随時対応ができるように協力病院の統一化を図っている。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と契約し、毎週1回巡視をお願いしている。体調不良者がいる際相談し、24時間体制で必要に応じて看護を受けられるようになっている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを作成し、医療機関に提出し情報共有へ役立てている。又、定期受診を行い、日常の様子を報告し相談に応じてもらっている。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様、ご家族様にとって最善の方向に持っていけるようにホーム長はじめ職員、家族間で十分に話し合い、要望に応じた対応を行い、必要に応じて看取りケアも行っている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、事故、急変時に備えている。定期的に消防署の応急手当等講習を受け、知識、技術を身につけている。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施している。過去には夜間想定や、地震等の震災を想定し訓練を行ってきた。全職員が安全に避難誘導する事ができる。地震災害の対策として、非常食を3日分備蓄している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室に入る際は、必ず声掛けを行う。洗濯物を人に見られたくない入居者様には、洗濯ネットへ入れ、洗濯してから本人へ渡している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望にそい、日用品、食品等買い物に同行。本人の好みの物を選んでい。又、必ず本人様へ意思確認を行っている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食後は、それぞれ新聞を読んだり雑談をしたりしながらゆったりとした時間を過ごされている。天気の良い日は、外気浴、畑の野菜の収穫や育ち具合、草花を見たりして過ごす。入浴は1日おきで一人ひとりのペース習慣に合わせている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院にこだわりがある入居者様には、ご家族様に協力していただき、なじみの美容院に連れて行っていただいている。又、いくつになっても女性らしさを忘れず、毎日綺麗に身だしなみを整えお化粧等をされている方もおられます。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前後のテーブル拭き、おしぼり配り等入居者様と一緒にしている。出来るだけ温かな食事を提供するように心がけ、盛り付けも食事の時間に合わせて行っている。調理も出来る範囲で一緒に楽しみながら行っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人様の好みに合わせ、バランスよく摂取できるようにその都度声掛けを行うとともに、飲水量の少ない入居者様に対してはこまめな水分補給に努め、本人の好みの物を提供している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い一人ひとりの状態に合わせて清潔保持に力を入れている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	車椅子使用の入居者様でも常時オムツは使用せずにその方の状態に合わせて対応している。日中は出来る限りトイレでの排泄を促している。又、排泄時は入居者様本人の意思を尊重し、本人の声がかかるまで外で待ち負担にならないようにしている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、水分摂取量、排泄回数等を記録し、水分不足、運動不足にならないよう、軽い運動やリハビリ体操等を行っている。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者様の体調を考慮し、個々のペースに合わせて楽しみながら入浴している。又、震災後よりシャワー浴、一般浴を1日おきにて行い、身体清潔を保持している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や意思を尊重し、休息や安眠できるよう支援している。自力動作が難しい入居者様に対しては、定期的に車椅子からベットにて臥床していただき、長時間体圧がかからないように介助している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルし、事務所内にて保管している。変更があればその都度確認するようにしている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の生活歴や嗜好品、得意な事等職員全員が把握しており、女性の入居者様においては、食後食器拭きやテーブル拭き、男性の入居者様ではフロアのモップ拭き等それぞれが役割を持ち、場面にあった支援が出来るようにしている。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣や、お花見等年間行事や、ご家族様と共に外食、ドライブ等の外出支援を計画している。又、毎日の散歩や必要に応じて買い物に出かけたりし、それが楽しみや生きがいとなっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理が出来る入居者様に対してはお財布はご自身での管理とし買い物等の支払いをしていただいている。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>個人で携帯電話を所持されている方もおられます。年賀状を家族、友人宛に書き近くのポストへ職員と出しに行くこともある。</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関前や、ベランダに草花や鉢植えを飾り四季を感じていただいている。木々の間から光がたっぷりと差し込み暖かい雰囲気を感じる事が出来る。毎月フロアに貼り絵や、塗り絵等で飾りつけも行っている。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食後等はテレビ観賞が日課で和室前に椅子を並べ、お互いに譲ったり、自室にて過ごされたりと、思い思いの場所で過ごしている。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>長年自宅で使用されたなじみの物を持参されたり、使い慣れた物に囲まれ、居心地良く生活をしていただいている。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全に歩行ができるよう各所に手すりが設置されている。又、広いフロアは車椅子がスムーズに移動ができる。手作りの日めくりカレンダーと壁時計で、月日を確認できるようにしている。</p>

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない